

4 在宅医療に関する地域住民への普及啓発

○背景・目的

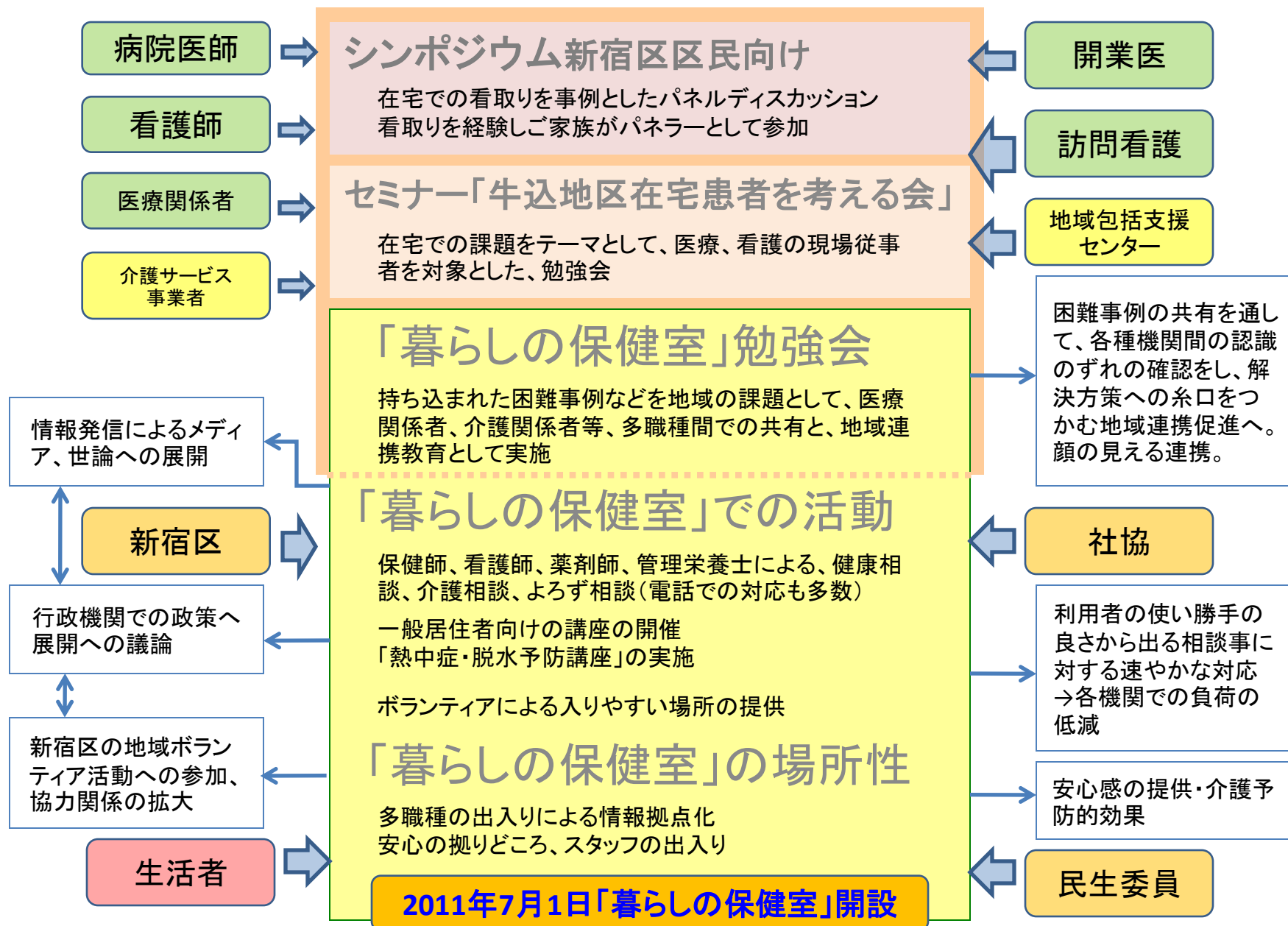
在宅での療養やそれを支える訪問診療や訪問看護の役割について、また自宅で人工呼吸器の装着や点滴による治療が可能なことを知らない一般市民も多い。

○内容

- ・ 在宅医療やそれに従事する職種の機能や役割を広く地域住民に紹介し、地域に浸透させるためのフォーラムや講演会等の開催やパンフレットの発行を通して、在宅医療の普及を図る。



「暮らしの保健室」での在宅連携拠点事業の展開とその方向性



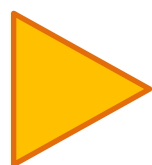
えきまえ保健室

一人で悩まないで、
一緒に考えませんか。



地域にお住まいの方々の暮らしや健康、
医療、介護のご相談をお受けします。

誰に聞けばいいかわからない
困りごとはありませんか？



地域の医療・介護状況を熟知した
相談員が担当いたします



健康や地域医療、介護に関する勉強会を開催します

お茶を飲みながらゆったりすごせる地域のみなさまに開かれた場所です

在宅医療連携拠点施設



保健・医療・福祉サービスの拠点施設

保健センターや福祉事務所等行政機能 社会
福祉協議会や医師会などを集約

⇒ 結とぴあ

「在宅医療相談支援センター」を設置



平成24年4月オープン予定

結とぴあ

保健・医療・福祉サービス拠点機能が加わります。



5 在宅医療に従事する人材育成

○背景・目的

在宅医療においては、医師・歯科医師・薬剤師・看護職員・ケアマネジャー等の多職種が各々の専門知識を生かし、積極的な意見交換や情報共有を通じて、チームとして患者・家族の質の高い生活を支えていく必要がある。

○内容

- ・連携拠点のスタッフは、都道府県リーダーとして、在宅医療に関わる人材の育成に積極的に関与すること。
- ・このため、国立長寿医療研究センターが開催する都道府県リーダー研修や都道府県が開催する地域リーダー研修に積極的に参加することが求められる。

* 都道府県リーダー研修

各都道府県で中心的な役割を担う者に対し、国立長寿医療研究センターが在宅チーム医療についての研修を行った後、それぞれの都道府県内で地域リーダー研修の指導者としての役割を担ってもらう。

* 地域リーダー研修

市町村単位で研修に参加する医師・歯科医師・薬剤師・看護職員・ケアマネジャー等の在宅医療従事者に対して、都道府県リーダーが多職種協働による在宅チーム医療についての研修を行う。修了後、地域リーダーはそれぞれの市町村内で、地域の在宅医療従事者に対する研修を展開する。

在宅チーム医療を担う人材育成

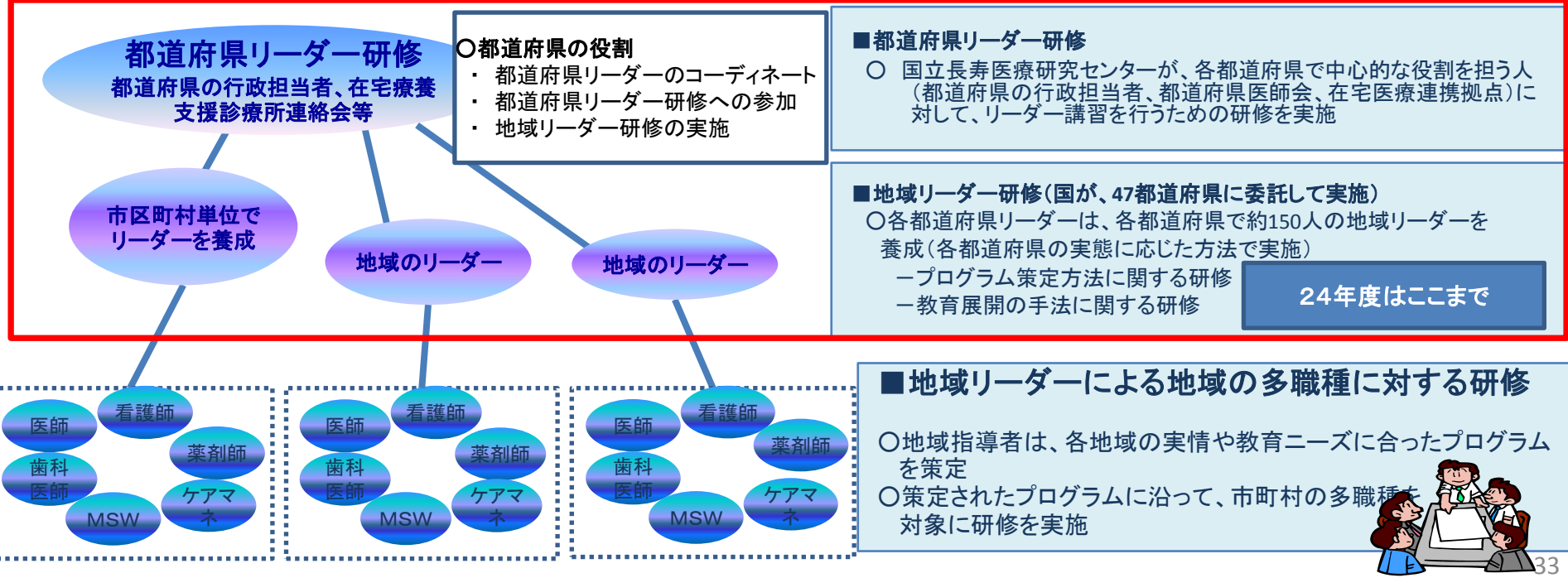
24年度予算 109百万円

■多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業

■本事業の目的

- 在宅医療においては、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネジャー、介護士などの医療福祉従事者がお互いの専門的な知識を活かしながらチームとなって患者・家族をサポートしていく体制を構築することが重要である
- 国が、都道府県リーダーに対して、在宅医療を担う多職種がチームとして協働するための講習を行う(都道府県リーダー研修)
- 都道府県リーダーが、地域リーダーに対して、各地域の実情やニーズにあった研修プログラムの策定を念頭に置いた講習を行う(地域リーダー研修)
- 地域リーダーは、各地域の実情や教育ニーズに合ったプログラムを策定し、それに沿って各市区町村で地域の多職種への研修を行う。これらを通して、患者が何処にいても医療と介護が連携したサポートを受けることができる体制構築を目指す

※WHO(世界保健機関)は、「多職種協働のためには、多職種の研修が重要である。」と推奨している。(2002年)



研修会・意見交換会の開催と既存の会への参加

主催した研修会・意見交換会

開催日時	会種別	テーマ	参加数
H23.10.05	研修会	ココがポイント！現場の感染症対策	125名
H23.11.11	研修会	スムーズな退院に向けた医療・介護の連携について	54名
H23.12.08	研修会	スムーズな退院に向けた医療・介護の連携について	28名
H24.01.24	意見交換会	行政担当者・施設管理者との意見交換会	35名
H24.02.03	研修会	褥瘡の知識と現状について、褥瘡予防とスキンケア	123名

参加した既存の学習会

開催日時	参加形態	会名	参加数
H23.05.30	参加	南庄内在宅医療を考える会	24名
H23.06.10	参加	つるやくネットワーク学習会	19名
H23.07.12	参加	南庄内地域連携パス講演会	72名
H23.07.13	支援	庄内地域医療連携の会	98名
H23.07.14	支援	南庄内栄養と食の連携を考える会	74名
H23.07.15	参加	庄内地域医療連携の会／退院・転院調整看護師の会	29名
H23.08.04	共催	医療と介護の連携研修会	136名
H23.08.29	支援	南庄内在宅医療を考える会	165名
H23.10.09	参加	鶴岡市民健康のつどい	200名
H23.10.27	共催	庄内PJ地域連携WG ふらっと会	89名
H23.11.18	共催	医療と介護の連携研修会	122名
H23.12.15	共催	南庄内在宅医療を考える会	27名
H24.02.08	参加	荘内病院褥瘡ケアにおける地域連携を考えるシンポジウム	130名

研修会の開催を通して、在宅医療の現場に近い研修会の継続開催を望む声が多く聞かれた。

地域内の講師を迎えることにより人と人の繋がりや信頼関係を構築できることがわかった。

既存の会には、ほたるとして参加することはもちろんだが、可能な場合は運営の支援や共催を提案した。

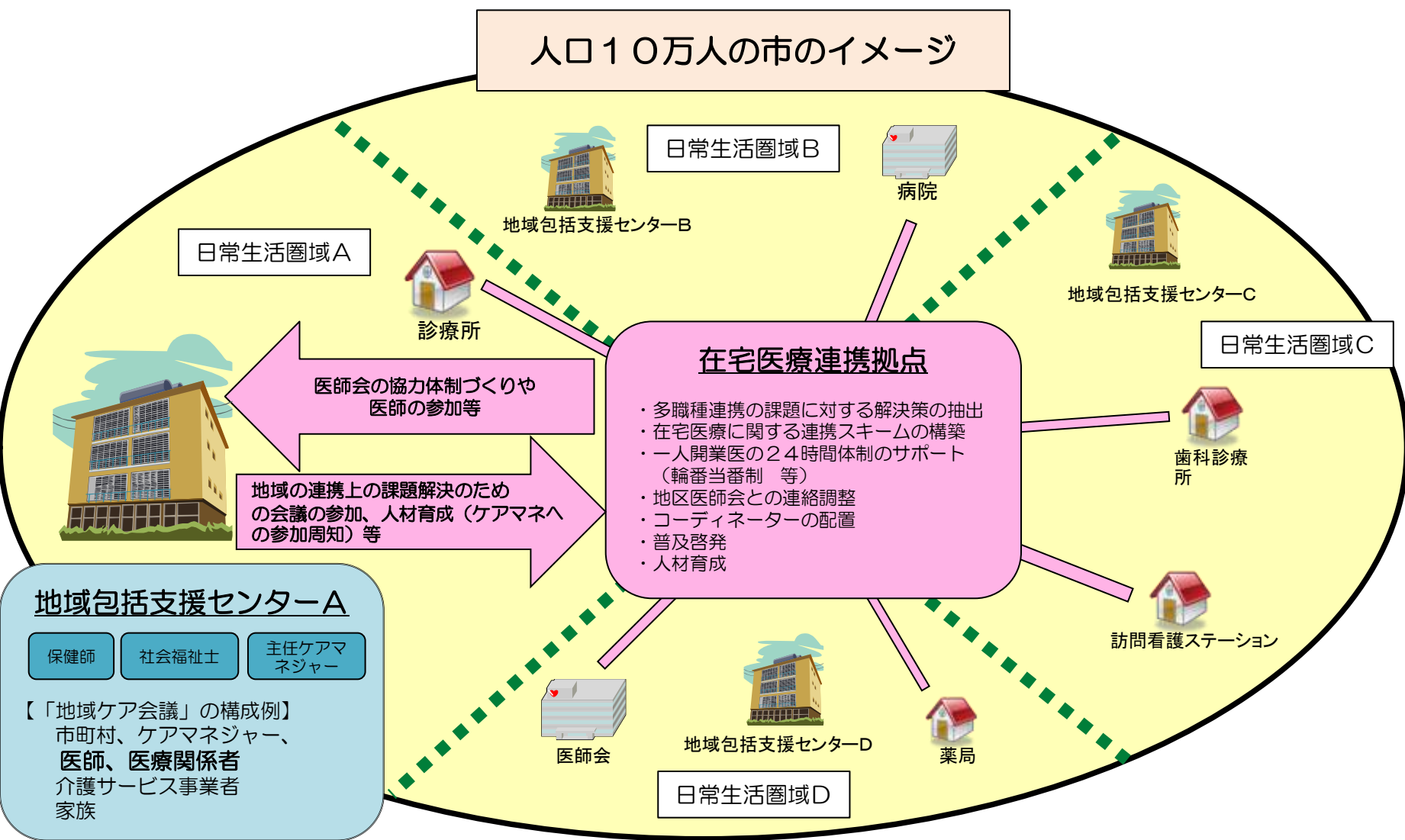
地域内の多くの会が、それぞれに企画を行う体制のため、毎日学習会が開催される週があった。地域全体のコーディネートが必要。

地域のニーズに応えた学習会の開催と、イベントコーディネーター役を目指す。

- ・ほたるとして在宅医療の現場に近い学習会を継続して開催していく。
- ・既存の会への参加を継続するとともに、運営支援・共催といった体制を強化する。
- ・地域全体の医療介護系のイベントコーディネーター役を担う。
- ・在宅医が中心の「南庄内在宅医療を考える会」の事務局機能を担い、24時間体制の構築を支援する。

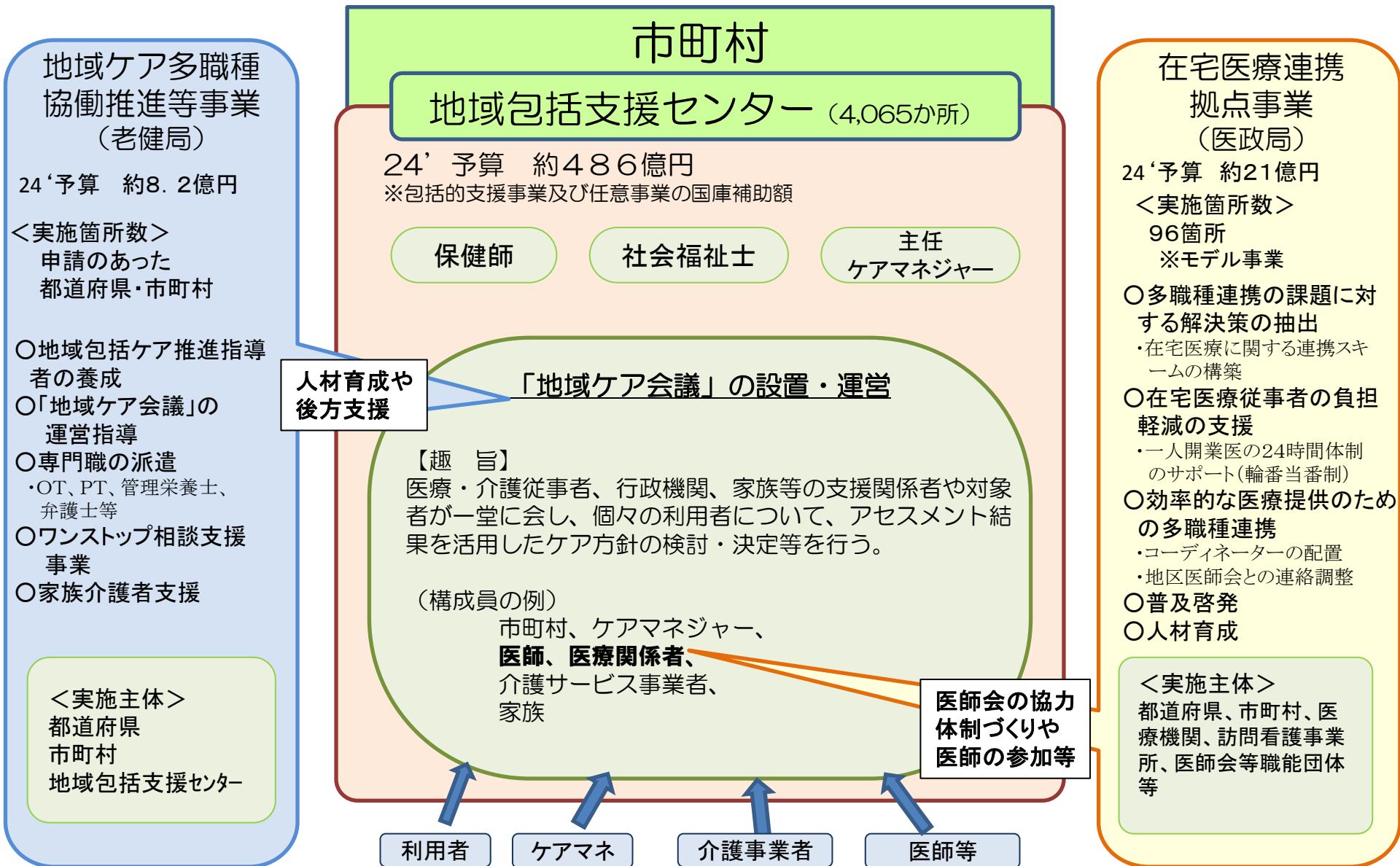
(参考1)

地域包括ケア体制について(イメージ)



※ 地域包括支援センター及び在宅医療連携拠点の連携は、地域の実情により柔軟に行う。

(参考2) 地域包括ケア体制について (平成24年度予算)



※ 地域包括支援センター及び在宅医療連携拠点の連携については、地域の実情により柔軟に行うこととする。